

2017年 装備表一覧表 島田ガイド事務所 (転載禁止)

入門=①基本装備 縦走=①基本装備	クライミング=①基本装備+③クライミング装備
岩場克服=①基本装備+②安全装備	沢登りコース=①基本装備+②安全装備+⑧沢基本(+⑨沢応用)
山小屋泊=①基本装備+④山小屋泊装備	テント泊=①基本装備+⑤テント泊
雪山=①基本装備(+②安全装備+⑦雪山応用)	雪山テント=①基本装備+⑥テント(冬)(+⑦雪山応用)

①基本装備	<p>登山靴、靴下、肌着上下、中間着、オーバー上着、長ズボン、雨具、手袋、帽子、防寒着、サングラス、ゲーター、 ※靴は足首が不安な方、歩行距離が長い場合、足首を守るハイカットの登山靴のほうがよい。長いテント泊縦走においては 当たりが柔らかい革製がよい。クライミングにおいてはアブローチシューズでよい。 ※ 秋冬&早春は寒暖の差が非常に激しいことを認識して持参する。帽子はウールのニット帽をプラスしたほうがよい。</p> <p>ザック30-40ℓ、地図、プレートコンパス、タオル、ティッシュ&持ち帰り袋、行動食、昼食および行動食、水筒、魔法 瓶、ヘッドランプ(予備電池)、財布、携帯電話、常備薬、非常品、嗜好品(カメラ、双眼鏡等)、筆記用具 ※状況に応じてあればよいもの、虫よけスプレー、虫よけ網帽子、地図ケース、ザックカバー、インナーバック</p> <p>救急具(テープング、三角巾、ナイフ、レスキューシート、絆創膏、鎮痛剤、各自常備薬) ※夏はボイズンリムーバー+虫刺され、脱水対策で経口補水液や塩。高山では日焼け止め、頭痛薬があると便利 ※あればよいもの、ツェルト、目薬、胃腸薬、刺抜きピンセット、靴ズレパッド、メガネの方は予備コンタクト等</p>
+②安全装備	ヘルメット、簡易ハーネス(クライミングハーネスでも可)、安全環カラビナ(HMS)×2+120cmスリング×1
+③クライミング装備	ヘルメット、クライミングハーネス、クライミングシューズ、ピレイデバイス+安全環カラビナ、安全環カラビナ(HMS)× 2+120cmスリング×1、チョークバック ※リードを意識される方は、クイックドロ、カミングデバイス、スリング等適量持参
+④山小屋泊装備	携帯充電器、宿用衣類(肌着上下あれば予備としても利用可)、歯ブラシ ※あればよいもの シルクインナーシート
+⑤テント泊装備	シュラフ(3シーズン用)、個人マット、(秋冬、必要に応じてインナーダウン上下)、食器類(おわん×2、はし、スプー ン、拭く物)、水筒(プラティパス等2L用)、水 or 飲料(初日の行動分のみ持参) ※あればよいもの、お茶ネタ ※シュラフカバーは一泊の場合はお好みで。連泊時は結露によるシュラフの濡れを防ぐ為に必要。
+⑥テント泊装備(冬)	冬用シュラフ、個人マット、インナーダウン上下、食器類(おわん×2、はし、スプーン、拭く物、水筒(プラティパス等2L 用)、水 or 飲料(初日の行動分のみ持参ください) ※冬用シュラフの目安は-5℃以上対応のもの。無い場合は3シーズン用+インナーダウン上下である程度代用可。 ※シュラフカバーについては春~秋と同様。※あればよいもの、テントシューズ、お茶ネタ
①雪山基本装備	<p>冬靴、厚手靴下、冬肌着上下、中間着、厚手ズボン、冬アウター、オーバースポ、手袋(薄手+厚手+シェル)、帽 子(ニット帽で耳が隠れるもの)、バラクラバ、防寒着(状況に応じて薄手または厚手または化繊ダウンジャケット)、サ ングラス(状況に応じてゴーグルも)、冬用ゲーター、</p> <p>※冬靴とは、保温材が入っていて、アイゼン装着に耐える硬さのある登山靴のこと。厳冬期用、残雪期用の2種類がある。 理想は冬靴に前爪付10~12本爪アイゼン。低山雪山では3シーズン登山靴+6本爪アイゼンでも可能な場合もある ※靴下 厚手のもの。2枚重ねはおススメしない。血行が悪くなり凍傷を起こす可能性が高まる ※肌着上下 綿や夏用速乾シャツは禁止 ウールまたは速乾性+保温性両方ある化繊 ※中間着 フリースや化繊ダウンなど。濡れると保温力を失うダウンは行動用には適さない場合あり ※防寒着 防寒として厚手フリースやダウンジャケット。休憩時、避難時などに用いるアウターウェア ※アウター 低山では雨具で代用も可能だが、冬アウター&オーバーパンツは保温や雪侵入防止等の工夫がなされている ※手袋 薄手ウールと中厚のオーバー手袋の最低2種類は必要。アイゼン取付等細かい作業は薄手で行う。</p> <p>前爪付アイゼン、ピッケル、ストック1本~2本、 ※ピッケルの用途:滑降停止、ルート工作、傾斜地での姿勢保持、支点等。傾斜の少ない場所ではストックもあれば便利。 ※ピッケルの長さ:緩斜面が多いルートは長めのピッケルを杖として使う事が多い 急斜面が多いルートは短めが良い ※チェーンアイゼンは凍結した登山道では有効なので別に持参してもよい</p> <p>ザック30-40ℓ、地図、プレートコンパス、タオル、ティッシュ&持ち帰り袋、行動食、昼食および行動食、水筒、魔法 瓶、ヘッドランプ(予備電池)、財布、携帯電話、常備薬、非常品、嗜好品(カメラ、双眼鏡等)、筆記用具 ※状況に応じてあればよいもの、カイロ、雪ブラシ ※ザックはメッシュやポケット付は雪が付着&侵入するので無いほうが良い</p> <p>救急具(テープング、三角巾、ナイフ、レスキューシート、絆創膏、鎮痛剤、各自常備薬) ※冬は、予備手袋、ツェルト、カイロなども持参するとよい。お茶ネタでは保温効果の高いしょうが系や葛根湯もよい ※あればよいもの、目薬、胃腸薬、刺抜きピンセット、靴ズレパッド、メガネの方は予備コンタクト等</p>
+⑦雪山応用装備	スノーシュー or わかん、ビーコン、プローブ、ショベル
+⑧沢基本装備	沢シューズ、アブローチシューズ、沢靴下、沢ウェア(上は速乾性の山着、下はタイツ+短パンでも可)、笛、防水イン ナーバッグ ※沢によってはアブローチシューズを背負っていくことがあります
+⑨沢応用装備	肘あて、膝あて、沢ゲーター、防水ザック、ライフジャケット、蛭スプレー、蜂スプレー

ガイド装備(日帰り~ 山小屋泊)	ロープ、カラビナ・スリング少々、ツェルト、簡易ハーネス、ストーブ&ポンペ、コッヘル、救急品、非常食、予備電池、 予備ヘッドランプ、携帯ラジオ(雷探知&天気予報)
ガイド装備(テント泊)	テント、テントマット、ペグ、食料(夕&朝食分 米は1夕朝食1人1合)、鍋3(水用、米用、鍋用)、パーナー&ガス、コン ロ台、風防、まな板2、包丁大小各1、おたま、しゃもじ、菜箸、調味料(塩、コショウ、醤油)、お茶ネタ(人数分×泊 数)、プラティパス人数分(夕朝食2L&翌朝の行動用水)、軽量トートバック、キッチンペーパー
+ガイド冬山装備	ショベル、雪ブラシ、雪袋、雪見ちゃん

レンタル可能品	ヘルメット/簡易ハーネス/クライミングハーネス/クライミングシューズ/安全環カラビナ×2+120cmスリング /シュラフ/冬シュラフ/個人マット/スノーシュー/ピッケル/前爪付アイゼン 各種1回500円
---------	--

